

当院血液透析患者における血清亜鉛濃度と動脈硬化指標、 疾患との関連の調査

研究期間:2019年7月1日～2022年6月30日

背景

CKD(慢性腎臓病)患者はアルブミン尿、食欲不振、栄養障害、食事制限、透析液への亜鉛・アルブミン喪失などの条件により、低亜鉛血症に陥るリスクが一般人口に比べて高い。一般的に低亜鉛血症が味覚異常、食欲低下、創傷治癒遅延、貧血などに影響を及ぼすことが知られている。しかし、低亜鉛血症が CKD 患者の動脈硬化指標、疾患(ASO,弁膜症、冠動脈疾患)に与える影響はほとんど知られていない

目的

CKD 患者の最重症集団である血液透析患者において、低亜鉛血症が動脈硬化性指標、疾患(ASO,弁膜症、冠動脈疾患)と関連しているか、横断的な調査を行う。

方法

2019年の7月に測定された血清亜鉛濃度と動脈硬化性指標、疾患(ASO,弁膜症、冠動脈疾患)との関連性を診療録を参照して統計学的に検討する。

対象

2019年7月の時点で、当院の血液透析外来に通院している透析患者

利用する情報:カルテの診療録(年齢、性別、病歴、手術情報、血液・画像データ、検査データ、血圧等のバイタルサイン)

その他の事項:

主任研究者が院内において匿名化した情報を扱い統計解析を行うため、院外へ個人情報等が開示されることはありません。また、研究目的で通常診療以上の検査を追加することはありません

主任研究者:三菱京都病院 腎臓内科 松井 敏

615-8087 京都市西京区桂御所町1番地 電話:075-381-2111(代)